

教授

園山 繁樹

■ 学歴

1. 1988 年 筑波大学大学院一貫制博士課程心身障害学研究科 単位取得後退学

■ 学位

1. 1994 年 博士（教育学）（筑波大学）

■ 研究分野

1. 特別支援教育学
2. インクルーシブ保育
3. 行動情緒障害学

■ 研究キーワード

1. 特別支援教育
2. 場面緘黙
3. 行動障害

■ 研究課題

1. 場面緘黙のある人の支援方法。場面緘黙の状態像は多様であり、それぞれの状態像に応じた支援方法の開発を目指す。
2. インクルーシブ保育の方法。統合保育からインクルーシブ教育への理念の展開を踏まえた保育の方法論について考察する。
3. 行動障害のある人の支援方法。行動障害の生起に関係する要因の特定、及びそれらの要因に基づく支援方法の在り方の定式化を目指す。

■ 担当授業科目

※該当なし（2025 年度入職）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※該当なし（2025 年度入職）

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1979 年 3 月～現在に至る	日本特殊教育学会	理事（2012 年 9 月～2020 年 6 月） 和文誌編集委員長（2013 年 1 月～2016 年 7 月） 常任編集委員（2001 年 9 月～2024

			年 7 月)
2.	1982 年 5 月～現在に至る	日本行動分析学会	理事長(2012 年 4 月～2015 年 5 月) 第 27 回年次大会実行委員長 (2009 年 7 月) 第 19 回年次大会実行委員長 (2001 年 8 月)
3.	2008 年 7 月～現在に至る	障害科学学会	会長 (2021 年 4 月～2024 年 3 月)
4.	2014 年 9 月～現在に至る	日本場面緘黙研究会	会長 (2018 年 9 月～現在に至る) 学術機関誌編集委員長(2022 年 5 月～現在に至る) 第 1 回研究大会共同実行委員長 (2025 年度)
5.	2024 年 6 月～現在に至る	日本保育学会	
6.	2003 年 3 月～2023 年 3 月	日本自閉症スペクトラム学会	副会長(2014 年 7 月～2017 年 7 月) 第 11 回研究大会会長(2012 年 8 月)
7.	2003 年 4 月～2023 年 3 月	日本福祉心理学会	編集委員長 (2005 年 7 月～2016 年 6 月) 第 8 回大会実行委員長 (2010 年 8 月)

■ 研究業績等に関する事項 (2024 年度)

	発行又は 発表の年月	著書、学術論文 等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表 学会等の名称	概 要
(著書)					
1.					
2.					
3.					
(学術論文)					
1.	2025. 2	Supporting Foreign Students in Elementary Schools: A Questionnaire Survey on Elementary School Teachers	共	Journal of Special Education Research, Vol.13, No.2 (査読付)	① 外国人児童を指導する小学校教員 36 名を対象に、教員と児童の指導上の困難について質問紙調査を行った。その結果、保護者とのコミュニケーションの困難、授業における「聞く力」「書く力」「計算力・推論力」という学習技能が授業や学校生活への参加に影響を与えていることが示唆された。 ② 共著者名: Yuqian Yang, Hong Pei,

					Ami Sambai, <u>Shigeki Sonoyama</u> , Hiroki Yoneda ③ (P105～118)
2.	2025. 3	場面緘黙のある子どもの支援における学校・家庭・専門家の連携をめぐって	単	場面緘黙研究 , 第 3 巻第 1 号	① 学校に在籍する場面緘黙の子どもの支援においては学校（担任）と家庭（保護者）の連携協力が不可欠である。一方、我が国における場面緘黙支援の専門家の要件は不明確である。専門家としての要件を論議し、三者の連携協力の態様を筆者の臨床経験に基づいて考察した。 ② (P67～P72)
(翻訳)					
1.					
2.					
3.					
(学会発表)					
1.	2024. 9	教育・福祉における強度行動障害の支援体制のあり方～現場に根付くチーム支援・人材育成に焦点を当てて～(自主シンポジウム)		日本特殊教育学会第 62 回大会 (於：福岡国際会議場)	① 教育・福祉分野における行動面の課題を有する人たちの支援実践や支援人材の育成の取り組みから、各現場の組織に効果的に根付く強度行動障害の支援体制のあり方について検討した。指定討論者として、行動論的視点から強度行動障害の軽減・予防の支援について討論した。 ② 共同発表者：倉光晃子, 下山真衣, 丸山裕也, 今本繁, 松本奨平, 森口哲也, <u>園山繁樹</u> ③ 日本特殊教育学会第 62 回大会発表論文集 自主シンポジウム 7-14
2.	2024. 9	わが国における場面緘黙研究の現在と今後の方向を考える X—学校・保護者・専門家間の連携の必要性を保護者への調査と教師の実践から		日本特殊教育学会第 62 回大会 (於：福岡国際会議場)	① 場面緘黙の支援を取り巻く現状を保護者・教師のそれぞれの立場から改めて整理し、それぞれが必要とするサポートや連携の在り方について検討した。指定討論者として、教員・保護者・専門家のコンサルテーションの観点から討論した。 ② 共同発表者：奥村真衣子, 梶正義, 田島瑠姫, 大久保美香, 石田一平, <u>園山繁樹</u>

		問うー(自主シンポジウム)			③ 日本特殊教育学会第 62 回大会発表論文集 自主シンポジウム 3-12
--	--	---------------	--	--	---------------------------------------

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2025 年 2 月 14 日	茨城県発達障害者支援センター あい主催「令和 6 年度 発達障害支援セミナー（場面緘黙症支援）」において、「場面緘黙の理解と支援」をテーマに講演した。	講師
2.	2025 年 1 月 6 日	NHK「午後 LIVE ニュースー ン」で取り上げられた場面緘黙 の症状や有病率について情報提 供した。	情報提供
3.	2020 年 6 月～2023 年 3 月	松江市教育委員会	専門巡回相談員
4.	2015 年 3 月～2019 年 3 月	土浦市障害者介護認定審査会	委員
5.	2012 年 4 月～2015 年 3 月	独立行政法人日本学術振興会学 術システム研究センター	専門研究員（社会科学専門調査 班、心理学・教育学担当）
6.	2005 年 7 月～2006 年 3 月	茨城県特別支援教育体制推進事 業特別支援連携協議会	座長

7.	2004 年 7 月～2007 年 3 月	つくば市障害者計画策定懇談会	委員
8.	2003 年 6 月 2005 年 3 月	つくば市障害幼児教育研究推進 連絡会	委員長
9.	2003 年 6 月～2009 年 5 月	つくば市障害児就学指導委員会	委員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

※該当なし（2025 年度入職）